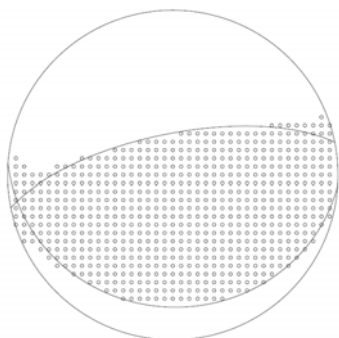


8月5日 インドネシア、スンバワの地震 (W-phase を用いた発震機構解析)

W-phase による解

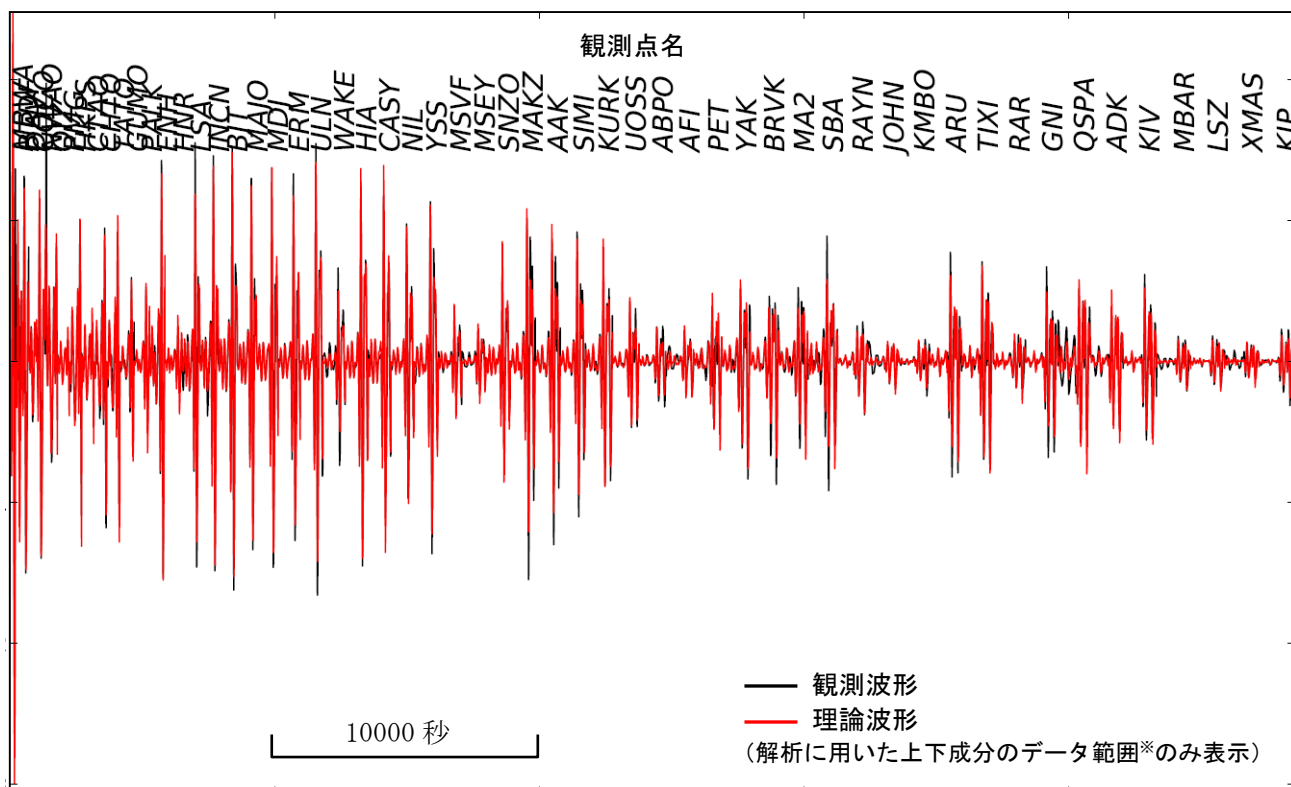


2018年8月5日20時46分(日本時間)にインドネシア、スンバワで発生した地震について W-phase を用いた発震機構解析を行った。発震機構、Mw とも、他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mw は 6.9 であった。なお、W-phase の解析で求めた震源は S8.5°、E116.4°、深さ 36km となった。

W-phase の解析では、震央距離 10° ~ 90° までの 56 観測点の上下成分、35 観測点の水平成分を用い、100~300 秒のフィルターを使用した。

注) W-phase とは P 波から S 波付近までの長周期の実体波を指す。

Mw	M ₀	断層面解 1 (走向/傾斜/すべり角)	断層面解 2 (走向/傾斜/すべり角)
6.9	3.21 × 10 ¹⁹ Nm	93.8° / 21.0° / 104.2°	258.6° / 69.7° / 84.6°



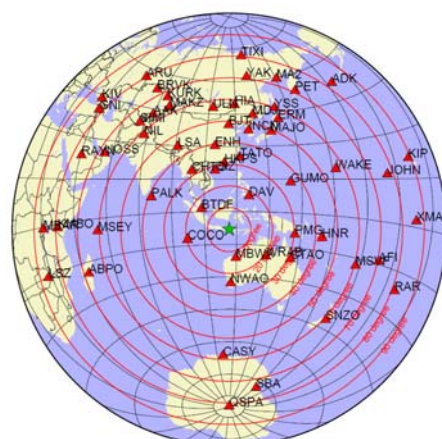
※解析に用いたデータの範囲は 15 秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phase に関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

解析データには、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) のデータ管理センター (DMC) より取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士及び Rivera 博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置

気象庁作成